

法遍寺 から大切な 皆様へ

2022年12月1日

日蓮正宗 年間方針

報恩躍進の年

法遍寺・天晴寺支部活動方針

常に明るく正直な生活

年間実践テーマ

① 真剣な勤行・唱題で
歓喜の行動

苦難を開く

勤行・唱題

② 僧俗一致の折伏で広布
へ躍進

諦めず

最後まで

③ 御報恩の登山と寺院参
詣で人材育成渴仰恋慕・朝夕の勤行
家庭訪問・寺院参詣・

支部総登山

〒488-0881

愛知県尾張旭市城山町三ツ池6075-1

(TEL:0561-54-9226)

相談無料



2022年11月13日 御報恩御講の様子

慧光山 法遍寺(えこうざん ほうへんじ)について 住職 近藤道正

法遍寺は、静岡県富士宮市にある「多宝富士大日蓮華山大石寺」を総本山とする日蓮正宗の寺院です。日蓮大聖人様の正しき信仰を人々に弘め、ここ愛知地域の全ての人々が真の幸せをつかむ為に、総本山第67世日頭上人が開基となって、昭和57年6月18日法遍院として設立され、平成20年12月23日には改築され、法遍寺となりました。日蓮大聖人様の出世の本懐である三大秘法の大御本尊に帰依(きえ)し、破邪顕正の布教活動をさせていただいております。

① 講中のみなさまへ「求法(ぐほう)の唱題が人生を変える」

帝釈は鬼神に化け、雪山童子の側で「諸行は無常なり、これ生滅の法なり」と説いた。童子はその残りの言葉を鬼神に求めたが、鬼神は童子の暖かなる血肉を食することを交換条件とした。童子は自分の身を差し出す約束をした。鬼神はその覚悟を聞いて「生滅を滅しおえ、寂滅を樂となす」と説いた。童子はこの法を何度も口に誦し、そして木に登り鬼神のもとにその身を投げた。鬼神は即座に帝釈の姿に戻り、童子の身を受け取り、天より降る諸天善神と共に童子の御前で合掌礼拝をなした。この童子は後の釈尊となる。久遠元初の仏は、末法に大聖人が下種の本尊として顕われ、「本尊とは勝れたるを用ふべし」(御書1275頁)と仰せになった。私たちは御本尊に向かい唱えるとき、心に妙法を求めているか。求法の唱題で人生を変えよう。

② 創価学会に籍を置くみなさまへ(創価学会破門の経緯を知らない方へ その28)

平成2年8月の連絡会議後、秋谷氏から藤本総監へ2回目となる電話があり、秋谷氏は八尋氏の言を裏付けとして「猥下は『懲罰』ということを確認に言われた」と言い張ってきた。しかし、藤本総監は先日の猥下のお言葉を重ねて秋谷氏に述べたところ、秋谷氏は「ああ、そうですか、恐れ入ります。申し訳ありません。有り難うございました」と答え納得した。その後、10月の総本山開創七百年の慶讃大法要を経て、11月20日、総本山御大会の折、池田・秋谷両氏ら5名がお目通りをした。その折、猥下より池田氏に対し、正信会問題を発言するときは、その原因となった学会の教義逸脱問題を忘れてはならないことや、「権威・権力」という発言が何を意味するものか、さらに四箇の格言に対する解釈や発言について注意があった。(次回 池田氏のスピーチについて)

③ 正しい仏教への信仰を知らない方へ(真実の懺悔とは何か)

一般に「懺悔」という言葉は、過去の罪悪を悔い改める意味で使われる。元来仏教の言葉であり、単に損害を与えた相手に詫びるという代償的な意味ではなく、全身全霊で心の浄化をはかるという意味である。仏教が説く「懺悔」は、あくまで生命の奥底からの発露をめざす。法華経の結びである観普賢経では「罪を犯す原因は己れの無知と妄想にある。懺悔するには実相を思え。己れの無知を悟り、仏道にその身を置き、智慧により消除せよ」(趣意)と説いている。生命の実相を明かさないうキリスト教には人の罪を許し得る義理がそもそも存在しない。「智慧」とは仏法を我が心に染めることである。この尊い「懺悔」は、三世の生命を解明する日蓮大聖人の仏法により成就する。ともに過去世からの罪業と向き合い累徳の人生を歩もう。